

編集後記

(56巻 第9号 2010年9月)

台湾で開催された第10回Asian Congress of Urology (ACU)に参加した。第1回が九州大学の熊澤教授のもとで行われてから20年となるということで、Urological Association of Asia (UAA)の設立20周年を祝う記念大会でもあった。UAA参加国は、西はイランから東は日本まで20カ国となり、それにオーストラリア・ニュージーランドが関連国として加わっている。AUAやEAUからも理事長クラスの代表が出席しており、20年をかけた組織の成熟とともに、国際的な認知度も上昇してきている。

初代のUAAのSecretary General (SG) は本誌の名誉編集委員長でもある吉田先生で8年(2期)務められた。その後、シンガポールのFoo先生(2期8年)、村井勝先生(1期4年)と続き、これらの先生方の尽力のもとでUAAは発展してきた。今回の参加国代表の選挙で、次期の第4代SGをなんと私が引き受ける事態になってしまった。吉田先生のもと出発したUAAであるが、次の20年の最初の4年間を今度は私がお世話することになった。また、福岡での第1回ACUは第7回の日韓泌尿器科会議と同時開催されたが、今年9月に開催予定の第27回会議は私が担当させていただくことになっている。何か因縁めいたものを感じざるを得ない。

それにしても、今年の日本の夏は暑い。なんと台湾のほうが4-5度気温が低い。関西空港に降り立って暑さが身にこたえるとは、いったいどうなっているのだろう。UAAの今後の20年も気がかりだが、それ以上に日本の20年後が心配になった。

(小川 修)